



附属学校部長就任にあたって



附属学校部長 寺川智祐

このたび、はからずも附属学校部長に任じられました。非才の身で果たして無事にこの重責を果たし得るのか、危惧している次第です。どうかよろしく願いいたします。

教育学部および福山分校が西条に統合移転したのに伴い、早急に対応しなければならない問題がいくつか出てきました。教育実習にかかわる問題もその一つです。従来、附属福山中・高校では、主として福山分校の音楽、体育、家政科の学生や、生物生産学部および総合科学部の学生が、また、皆実地区の附属小学校、附属中・高等学校では、主として教育学部、文学部、理学部、法学部、経済学部の学生がそれぞれ教育実習を行っていましたが、教育学部および福山分校が西条に統合移転した現在では、従来通りのやり方で学生を配分し、その配属を決めることはできません。こうした問題も含めて、教育実習に関する新しいルールが必要になってきました。現在、教育学部の教育実習に関する組織を中心にしてその作業が行われていますが、そこにはさらに大所高所から検討しなければならない問題が山積しており、その解決は容易ならざるものがあります。

たとえば、極めて近い将来、多くの学生が西条に居を構えるようになると、教育実習時には広島や福山に宿泊しなければならない学生も多く出てきます。そのための宿泊施設をどうするのか。これは教育実習の掌に当たっている教育学部だけの問題ではありません。現在、学校教育学部を中心に行われている教育実習は、しばらくは現行の体制が継続されていくでしょうが、学校教育学部が西条に移転した暁には、同じような問題が起こってき

ます。こうした問題は、教育学部や学校教育学部だけの問題ではなく、教育実習に関係のある各学部の問題でもあり、附属学校部は、これら関係諸学部および附属校との連絡を密にとりながら、全体としての調整にあたっていかなければなりません。

さらに一方、教育学部や学校教育学部の西条への移転は、もっと基本的で、解決の容易でない問題を現実的なものにしていきます。それは、広島大学の西条への統合移転が論じられるようになった頃から話題になっていた附属学校の西条への移転はどうなるのか、という問題です。附属学校園が、教育実習だけでなく、附属する大学・学部における児童・生徒または幼児の教育または保育に関する研究に協力するという使命を持っている以上、附属する大学・学部の近くにあることは必要だからです。しかし、新しい附属学校を西条に新設するならいざ知らず、広島や福山の地に長い伝統を持つ附属学校が西条に移るということは、その長年にわたる栄光と伝統故にそう簡単にはいかないでしょう。必要性は認められるとしても、その実行にあたってはさまざまな問題が生じ、それへの対応にはことさらに慎重を期す必要があります。当然、附属学校部はこのような問題にも取り組んでいかなければなりません。

附属学校部は、11の附属学校園を統括しながら、附属学校にかかわる問題を各関連学部との関係をも含めて連絡調整していく機関です。附属学校部が自らの機能を円滑に果たすためには、各附属学校園ならびに各学部のご支援とご協力が不可欠です。何卒よろしくお願い申し上げます。